

2018年1月21日開催
第12回シンポジウム 質問用紙記載の質問

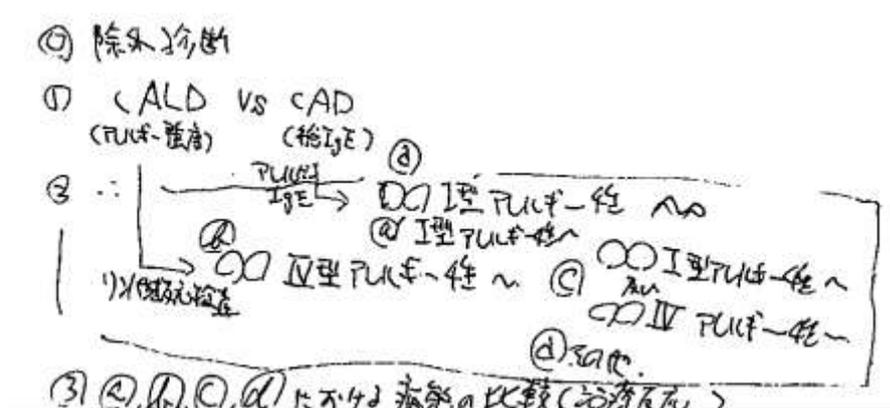
増田先生あて

・総 IgE を定量することは困難な事なのでしょうか。

ex) Derf-IgE と Derf 2-IgE に Paradox が起こる機序は分かりましたが、だとしたら、見逃しがある様に思われてなりません。

また、現在示された抗原に対してのみ IgE を産生される以外の症例もある様に思われます。

個人的には、CAD を疑う症例に対して、



⇒総 IgE 定量測定は比較的容易に構築することができます。犬では回虫寄生により健常犬でも総 IgE が高くなる傾向があると報告されており、アレルギーで総 IgE が上昇してもそれを隠してしまうと考えられています。そのため、イヌで総 IgE はあまり指標にならないとされています。ネコでは不明です。

⇒現在、人類が構築できるアレルギー特異的 IgE は、先生がおっしゃるとおり「見逃し」があります。とくに、粗抗原による IgE は、アレルギーの全体像を捉えるには適していませんが、細かいアレルギー反応は見逃す場合があります。細かいアレルギー反応を捉えるためには、粗抗原ではなく、各アレルギーで主要アレルギータンパクを同定し、それぞれの IgE 検査システムを作る必要があります。現在、犬でようやく Der f 2 の IgE の検査システムがたったひとつできたばかりで、その他のアレルギーにまで着手するには膨大な労力と時間がかかります。

⇒CAD の先生の診断フローチャートは正しいです。検査システムが洗練されることでこのフローチャートが細くなり、より正確なアレルギー診療ができるようになると思います。

岡田先生あて

- ・ ca チャンネルリガンドであるプレガバリンなどは、タイトジャンクションでの神経シナプスの ca 流入を減らして痒みの減弱にも有効でしょうか。

⇒薬剤効果の話ですので、増田が代返いたします。

岡田先生のご講演では、神経細胞の興奮を見る指標としてカルシウム流入を実験上利用しただけでございます。カルシウムの流入を抑えてしまいますと、あらゆる細胞でカルシウム流入が起こらず、それらの活性化を抑えてしまうと思います。したがって、痒みの神経だけに作用させて、痒みを減弱させるのは難しいだろうと思います。